海外だより　（第184回）

ヒューストン便り

柳　沢　　龍
テキサス州（アメリカ合衆国）滞在中

2011年の4月から米国テキサス州ヒューストン市にあるベイラー医科大学Center for Cell and Gene Therapyに研究留学させていただいております。

私が現在滞在しているヒューストンは近年，石油産業で急成長を遂げた全米第4番目の大きな都市です。アメリカ航空宇宙局（NASA）のジョンソン宇宙センターがあることでご存じの方もおられるかと思います。ヒューストンにはメディカルセンターと呼ばれる世界最大規模の医学部，病院，研究所などの集合地区があります。この中にMDアンダーソンがんセンターをはじめとした多くの研究施設があり，日本人研究者も沢山留学しています。私が留学中のベイラー医科大学もこの地区の一画にあります。私は日本国内にいる時は小児科で血液腫瘍に関連した患者さんを中心に診させていただき，小児の造血幹細胞移植にも携わらせていただきました。その経験の中で，現状の治療方法では太刀打ちできない病気を見る度に，将来は新たながん治療方法の開発に携われないかと考えるようになりました。また留学前の数年間は輸血部で樹状細胞療法についても学ばせていただく機会をいただきました。こうした免疫療法は近年，手術，化学療法，放射線療法につぐ第4の治療として注目され世界中で研究や治療が進められていますが，日本国内では残念ながらまだ大きく立ち遅れている分野です。留学先ベイラー医科大学はがんやウイルスに対する免疫療法の研究を盛んに行うとともに実際の臨床試験も進めている施設です。先立って研究留学でご活躍された中沢洋三先生に紹介していただき留学することができました。私も現在，様々ながんやウイルスに対する細胞傷害性T細胞の樹立を日々行い，将来的に少しでも多くの患者さんのお役に立てるよう努力しております。

渡米して半年以上が経過しようやく，こちらの生活にも慣れることはできました。しかし言葉も満足に通じず，文化の違う地での生活のセットアップは今思い出しても大変な思いをしました。同じラボをはじめメディカル地区在住の日本人の方にはたくさん助けていただき，とてもありがたかったです。言葉の壁にはいまだに日々泣かされ，英語が自由に話せたらどんなに良いだろうと何度考えたかわかりません。外国の方に折角気を遣って色々話しかけてもらった時に内容が分からないのは本当に情けない気持ちになります。それでも不思議なもので研究に関する会話だけは大分不自由がなくなりました。一方，肝心の研究の方もいざ始まってみると分からないことが多く，こちらも同じラボの多くの皆さんに助けていただきながら，いまだに四苦八苦やっている状態です。

皆さんのご想像通りメキシコ国境近くのヒューストンの今年の夏はとても過酷でした。しかし私たち日本人にとってもっと辛いのは厚着をしても凍えながら過ごす程冷え切った冷房の設定にあるかと思います。最近ではヒューストンも冬になり大分冷え込むようになりました。それでも松本の水道管が凍る程の冷え込みと朝起きた時の大雪がないのは良い所だと，こちらの生活も少し余裕をもってみることができるようになりました。また今年はこちらの地元テキサスレンジャーズが2年連続のリーグ連覇を果たし大変盛り上がりました。現在はアメリカンフットボールのシーズン真っ只中ですが地元テキサンズのホームスタジアムがラボから見える距離にあり，スポーツに関しては各分野とても楽しむことができます。今までは戸惑ってばかりの文化の違いでしたが，休日にはなるべく出かけたりして今は色々楽しむようにしております。

最後になりましたが，このような留学という機会を与えてくださった小児医学講座教授小池健一先生はじめ医局の先生方に大変感謝申し上げます。また現地での生活を支えてくれる家族および同僚の皆さんに対する感謝の気持ちを忘れず，残りの留学生活を精一杯頑張りたいと思います。

（2011年12月）

（信州大学医学部小児医学講座所属）